

~若手研究者からの発信~



Nei Cha - Industry Award
~若手研究者からの発信~

Nei Cha - Industry Award 研究の優秀案件を表彰

「自然の叡智」研究を奨励

会長賞に大阪市立大学准教授 小柳光正氏

大阪科学技術センターは11月20日、日刊工業新聞社が運営するモノづくり日本会議との共催で、「自然の叡智」を研究している若手研究者を奨励する「Nei Cha - Industry Award ~若手研究者からの発信~」を開いた。若手研究者のポスター発表などを通じて研究内容を産業界に発信し、マッチング機会を探りながら優れた研究を表彰する取り組み。会場となった大阪科学技術センター(大阪市西区)には約150人が訪れた。優秀案件の表彰式やNei Cha - Industry Awardとして講演会も実施された。



モノづくり日本会議
—モノづくり推進会議 NextStage—

主催 大阪科学技術センター

共催 日刊工業新聞社(モノづくり日本会議)



赤池 学氏

ユニバーサルデザイン総合研究所所長
筑波大生物学類卒。社会システムデザインのシンクタンクを経営してソーシャルインベーションを促す。科学技術ジャーナリストとして活動する。東京都出身。54歳

メカトロニクスやエンジニアリングの世界で自然の叡智に学び、生かすモノづくりが台頭し始めている。私は大阪院まで昆虫の發生生物学構造物を模倣する生物模倣工学がある。2005年には約140万人の雇用が「Nei Cha - Industry Award」系で生まれ出しができるといつトイズは生物工学の見本市を開催している。技術検討委員会も設立されていると聞く。生物模倣工学の国際標準化を目指したい。

そこで、三つのテーマで活動がある。資源そのものの機能性、ネットワークを駆使して形にすること、

略的に確保するか、いかに

歴史的研究者をネットワークに入れながら町づくりの研究で、ビジネスとして育みたい。それを社会がどのように受け入れてくれるか、が大きなテーマ。いかに戦

が大切だ。研究の材料を選んできた

が、高度に使うことだ。新たな機能性を見つかれば

シルクの衣料品や化粧品に用いることができる。生物そのもの知識

は、生物そのもの知識

は、生物そのもの知識